

2-3 シンセリード

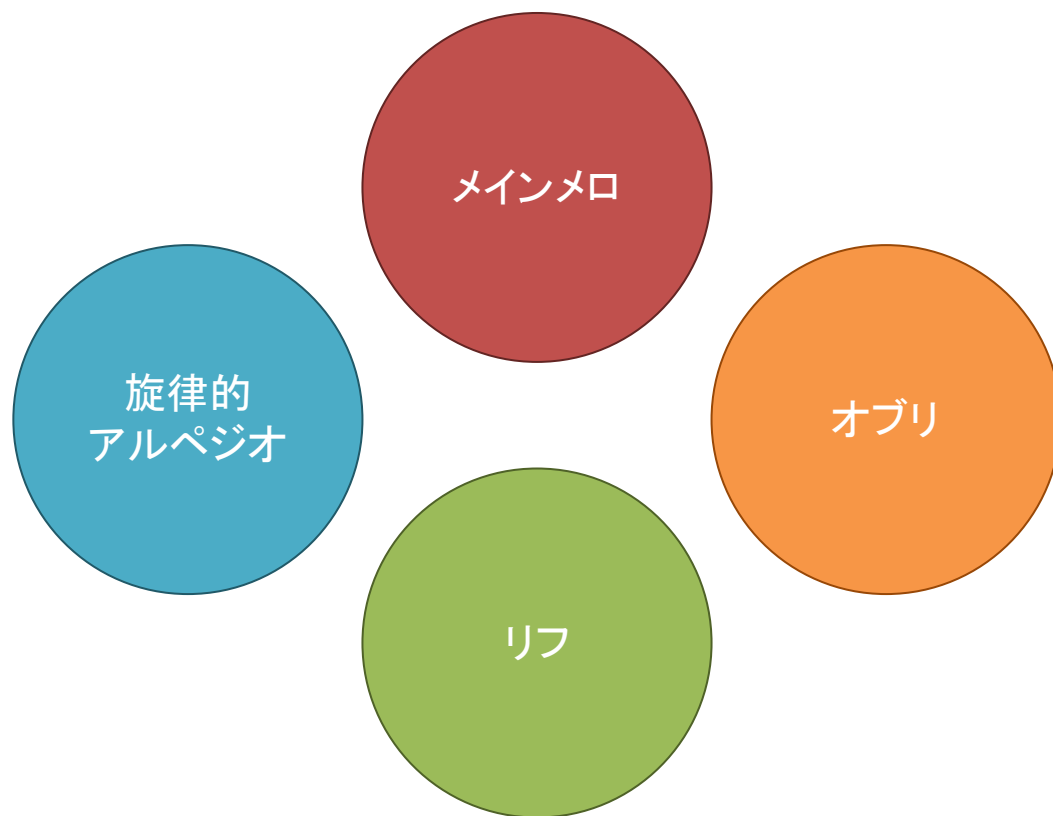
シンセリードの役割

シンセリードの最も重要な役割は、**旋律の演奏**。ここでいう旋律とは、いわゆるメインメロディのことだけを指す言葉ではなく、旋律的な要素を持った全てのものが該当する。具体的には以下のようなもの。

- メインメロディ
- オブリガート
- 旋律的アルペジオ
- リフ

シンセリードの役割

シンセリードの役割はズバリ旋律の演奏



シンセリードのアレンジ法

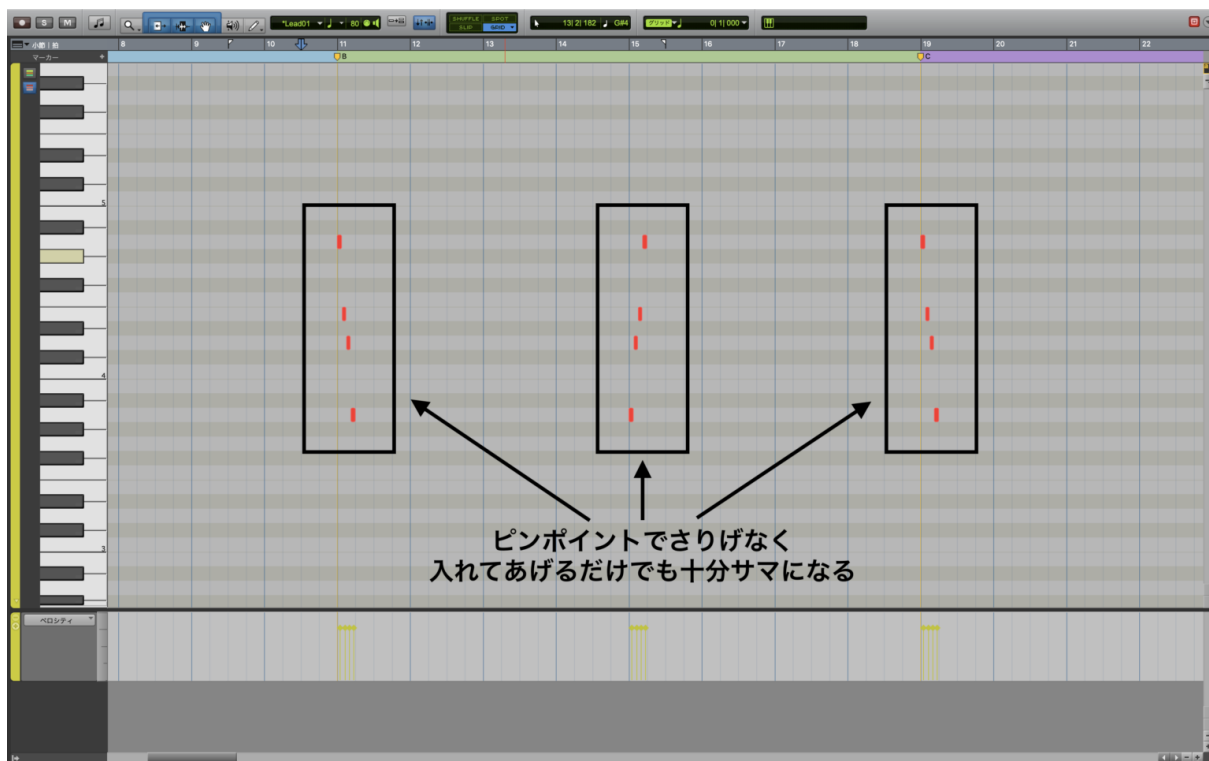
シンセリードの役割は旋律の演奏であることは前述のとおりだが、あまりにもわかりやすいメロを書いてしまうと、80年代テクノや、90年代ユーロビートのような古めかしい印象になりがち。

今風の垢ぬけたリードにしたいなら、以下の2つの考え方でアレンジすると良い。

- ① ピンポイントでアクセント程度に使う
- ② トリッキーでテクニカルなフレーズで攻める

① ピンポイントでアクセント程度に使う

軽めのフレーズをさりげなく散りばめる方法。ダンスミュージックはあくまで「踊る」ことが目的なので、アレンジの主体はリズムやバックングに任せ、リードはピンポイントで使うのも一つの手。



②トリッキーでテクニカルなフレーズで攻める

楽曲のソロパートなど、どうしてもガッツリとメロを演奏する必要がある場合は、できる限りトリッキーでテクニカルなメロディにした方が今風の仕上がりになる。昨今のEDM楽曲を研究してそのテイストをインプットしておこう。

■ テクニカルなシンセリードの例

[三代目 J SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE『R.Y.U.S.E.I.』](#)

(3分53秒付近～の間奏部分)

シンセリードの音作り:オシレータの設定

■ メインのオシレータ

音の質感やイメージを決める主役のオシレータ。作りたい音色に応じて使用するオシレータを適宜選択しよう。

■ サブのオシレータ

倍音の付加や音色増強用のオシレータ。各種加算合成テクニックを駆使しながらメインオシレータにプラスしよう。

【オシレータ選定例】

- ソフトリード：柔らかく丸みを帯びた音色。三角波のような倍音の少ないオシレータを選択するか、フィルターで倍音成分をカットして作る。
- ハードリード：派手でギラギラした音色。ノコギリ波、パルス波など、倍音の多いオシレータを選択した上で、ユニゾン&デチューンで厚みを出すと効果的。

シンセリードの音作り:オシレータの設定

■ ソフトリード



■ ハードリード



シンセリードの音作り:エンベロープの設定

■ アンプリチュードエンベロープ

旋律を演奏することが目的なので、立ち上がりが早く持続音が鳴らせるセッティングが良い。アタック早め、サステインはMax(100%)、リリースも早めが基本。

■ フィルターエンベロープ

音を持続させたいが、アタック感も欲しい時には、フィルターエンベロープが大活躍。アンプリチュードエンベロープのサステインを100%に設定しておけば、フィルターエンベロープ側でサステインを絞っても音を持続させることができる。

シンセリードの音作り:エンベロープの設定

■ アンプリチュードエンベロープ



■ フィルターエンベロープ



シンセリードの音作り:エフェクト処理

シンセリードにはディレイがよく合う。ディレイをかけることで、より複雑でリッチなリードサウンドに仕上がるので効果的に取り入れよう。ディレイの設定は8分音符や付点8分音符のテンポディレイがおすすめ。

